

長崎 下野 姫野
M. Takasaki
MIZUSAKI

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 16 □

佐古墳墓／招魂社

上の写真中央に見える、木の墓標は「官軍戦死の墓」と読める。明治政府の軍隊における戦死者の墓地佐古招魂社（長崎市西小島2丁目、現佐古仁田小学校横）である。

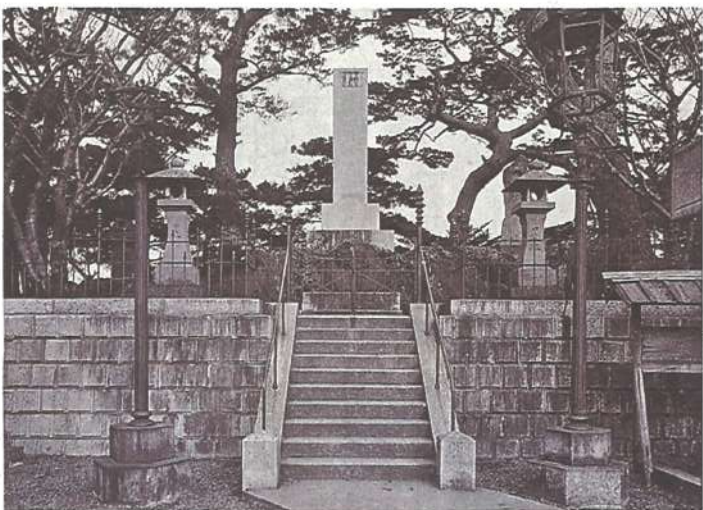
明治元（1868）年の戊辰戦争における奥羽戦で戦死した長崎出身の振遠隊17名と、翌年、函館戦争で軍艦長陽に乗り組んで戦死した26名は、長崎県知事沢宣嘉が梅香崎の大徳寺跡に創立した大楠神社のそばに埋葬された。

明治7（1874）年の台湾出兵時、大徳寺跡にあった長崎医学学校は蕃地事務局所轄の病院となり、戦死9名、病死372名は病院側の大徳園東に埋葬され梅香崎招魂場となった。翌8年、

招魂社の制の内務省通達により招魂社に改称される。明治10（1877）年、西南戦争における傷病者は市内の寺院や片淵の仮病院に収容され、死亡者は梅香崎招魂場が手狭なため、梅香崎だけでなく、稻荷岳の佐古にも埋葬された。12年、病院の拡張計画により墳墓の一部が佐古に移送される。さらに14年の太政官通達で両墳墓の合葬整備計画が進み、稻荷嶽神社を移設して佐古の墳墓地を拡張し、16年、両墳墓が合同した佐古墳墓／招魂社が完成する。この間、新病院の建設時に遺骨売却投棄事件の不祥事が起き、政府が調査に乗り出してきた。

下の写真にある中央の石柱は、この時完成した軍人

移設拡張し戦死者祭る



軍人軍属合葬の慰霊碑（長崎外国語大所蔵）

軍属合葬の慰霊碑（高さ5月、太政官の布達により墳墓完成の勅祭が催された。明治16（1883）年10勅使は北条侍従、祭主は西

南戦争における熊本城籠城の將軍谷干城。海軍中将仁礼景範は艦隊司令長官として扶桑・金剛・比叡の三軍艦を率いて参列した。この時、佐古招魂社に至る勅使道もできた。

歴史学者の重野安禪の慰霊文は、佐古改葬に伴う遺骨取り扱いの不敬を糾弾し、「西南の役」および「征台の役」における殉死者の遺漏を補正して555の名前を石碑に刻んだことを記している。

石柱右の灯籠の背後には陸海軍人軍属之碑が見える。小首根乾堂の書が刻まれた、この碑にも陸軍歩兵中佐葛岡信綱以下7名が戦死者の遺漏調査に当たったことが記されている。梅香崎の招魂場の佐古への移転統合と遺骨の移送には困難が続きまとった。

（長崎外国語大学長）

随時掲載します